



高槻・五領の環境と
子どもの未来を

守る会 News

発行：高槻・五領の環境と子どもの未来を守る会

☆ 高槻市は、多くの将来構想の改定期にあり、意見募集(パブリックコメント)をしています。考えましょう！そして、パブリックコメントを出しましょう。 ☆ 裏面 ちび火考 (2)



高槻市へ ; みんなで考えましょう！
そして パブリックコメントを書きましょう！

現在、高槻市は「第6次総合計画」(2021年～2030年)をはじめとして、多くの長中期計画(第4次高槻市青少年育成計画、第4次高槻市地域福祉計画・地域福祉活動計画等)の検討を行っています。これらは、高槻市の将来像に対する基本計画で、私達の生活にとって密接に関係してくる、非常に重要な内容が含まれていると思われます。各計画には、市民の意見を聞く、パブリックコメントが募集されております。計画素案、パブリックコメント提出方法は市のホームページのトップページ右下 にあり、簡単にアクセス可能です。パブリックコメントの提出方法も示されています。下記にパブリックコメントを現在募集中の項目一覧を市のホームページより転載しました。募集結果も掲載され、一件一件に個別回答がされます。

現在募集中のパブリックコメント

令和2年度

- 第6次高槻市総合計画(素案)に対する意見募集の結果について
- 「高槻市営バス経営戦略(素案)」に対する意見募集の結果について

- 第2期高槻市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)に対する意見募集
- 第4次高槻市青少年育成計画(素案)に対する意見募集
- 高槻市高齢者福祉計画・介護保険事業計画(素案)に対する意見募集
- 「第2期高槻市文化振興ビジョン(素案)」に対する意見募集
- 高槻市産業・観光振興ビジョン(素案)に対する意見募集
- 「高槻市地域防災計画(素案)」に対する意見募集
- 「第2次高槻市障がい者基本計画(素案)に対する意見募集
- 第2次高槻市障がい者基本計画(素案)に対する意見の募集ページです。
- 第2期たかつき地球温暖化対策アクションプラン(素案)に対する意見募集
- 「第4次高槻市地域福祉計画・地域福祉活動計画(素案)」に対する意見募集
- 「第2期高槻市スポーツ推進計画(素案)」に対する意見募集
- 第2期高槻市教育振興基本計画(素案)に対する意見募集
- 高槻市就職困難者就労支援計画(素案)に対する意見募集
- 高槻市情報公開条例及び高槻市個人情報保護条例の一部改正(素案)に対する意見募集
- 「高槻市第6期障がい福祉計画及び第2期障がい児福祉計画(素案)に対する意見募集
- 高槻市第6期障がい福祉計画及び第2期障がい児福祉計画(素案)に対する意見の募集ページです。

広報コーナー



- たかつきDAYS(広報たかつき)
- 令和3年 年賀状用素材
- メールマガジン
- メディア放映・掲載情報

あなたの声を市政に

- パブリックコメント
- 提案の広場

ページの先頭へもどる

1月23日(土) 16:30 ~ 上牧町 春日神社 予定

五領アートプロジェクト 「小さな火床をつくる」



編集部：新型ウイルス感染症の3回目のピークは終焉の気配もありません。海外の様に、際限なく拡大し続けるとすれば、最悪ワクチン完成を待つまでこのままの逼塞生活を余儀なくされる覚悟があるような。

「守る会」定例会は、毎月、第4土曜日
16:00~18:00、上牧公民館
(上牧町本澄寺前)で開催しております。

連絡は、事務局村井 (masa569@tcn.zaq.ne.jp)迄



発行：高槻・五領の環境と子どもの未来を守る会
代表：上田 博夫
住所：〒569-0003 大阪府高槻市上牧町
1丁目3-17 上牧公民館内
電話番号：090-2283-1619 (村井)
HP：<https://takatsukigoryo-mamorukai.jimdo.com>

ちび火考 (2)

小山田 徹



前号より続く

さて、ちび火の事。4年ほど前、阪大の有志から「様々な人々が自然に交流する場を学内に創りたい」との相談があり、私も駆り出された。「焚き火は世界最古、世界最強の共有空間」だから焚き火をしたら? と提案した。気軽な提案だったと思う。学内で火を焚く事の難しさや人々のコントロールの難しさ等解っていたので当初は無理かなと思っていたが、皆が粘り強く様々な制度的困難を調整して、学内で焚き火場を開く事が可能な企画『ちっちゃい火』を囲む通称「ちび火」がすばらしいバイタリティでスタートした。場は木の程よく茂る公園。地面に直接接触しない焚き火装置を使用する事にし、場を使用する前よりもきれいにして終了する事をモットーに、美しく安全でオープンな焚き火を目指す事を中心に企画を進めた。大きな火ではなく小さい火の方が今回の企画に合致すると思い、複数(7カ所程)の小さな焚き火場を設定し、場が点在しながら公園全体を場となるように配置。共有空間のレクチャーを最初に行い、火の熾し方の初歩的な説明を行い、皆に焚き火マスターとして焚き火を始めてもらった。火がおこり始めると後は一気に楽しみの場に。それぞれの焚き火場が徐々に個性を持ち始め、人々は焚き火場をハシゴしながら、いつしかどこかに落ち着いていく。食料の焼き物も様々に工夫をこらしはじめ、足りなくなると自分のアパートから持って来る人も。当然、スムーズにシェアし合う。不思議なくらい穏やかな楽しみの場が展開していた。集まった人々は、取りあえず自己紹介もなしに焚き火の周りに座り、様々な話題に花を咲かせており、通りがかりの学生たちもふらっと寄り付き、いつしか話に参加して長居する人々も多数いた。片付けの時には企画メンバー以外の名も知らぬ人々が当たり前のように掃除をしていた。1回目からおどろくほどの流れるような企画の運営が自然と生まれていた。

焚き火の遺伝子はちゃんと現代の私たちにも伝承されていたのだ。無意識に焚き火の力に影響されて、見知らぬ人とも自然に会話し、労働し、場を作り出していたのだ。「世界最古、最小最強の共有空間」は未だにその力を失っていないのだ。

ところで、ここまで焚き火について語りながらなんだが、ちび火は別に、焚き火文化を広める活動ではないのである。人々が様々な関係を結ぶ場と機会、何かを共有する場を創造する事、もしくは、その事について考え始めるきっかけとしての活動であるのだ。その事が、多様多様な価値観が多様な関係性を保証する世界の構築に寄与するとの確信が動機なのである。私は「美術家」として活動をしているが、美術も世界の多様性が保証される社会のために存在すると思っている。価値観の均質化と統合に対しては危機感を持っているのだ。多分、他の様々な学問も同じように世界の多様性に寄与していると思うのである。ならば、様々な学問が集まる大学も多様性が保証される世界であるべき事ならば、別に焚き火じゃなくてもいいのだ。

近年、世界の様々な事は今やほとんど発明されていて、私たちにはもはや発明の余地はなく選択の自由しか与えられていないのではないかと不安になるような時代であったが、最近、経済不況や政治不安、自然の驚異などで既存の制度の皮が剥げ始め、再び、変化の時代がやってきているような気がする。数年後には今よりもっと大きな変動の時期がやってくるような気配がある。そんな中、肝心の私たちの体、心は変化に対応するだけの体力と技術と思考と柔軟性を持っているのだろうか? ちび火はその確認とトレーニングの初歩的な試みの一つである。初歩的なトレーニングは楽しくなければ身に付かないし、簡単でなければ継続できない。さらに、初歩的な事は様々な事に共通のベーシックなスキルを含む。火を焚く事は本来簡単で楽しいし、様々な生活の事ごとに繋がる基本であろう。(でも、火を焚く事は社会的に難しいのが現実でした...)

東日本大震災被災地で最近耳にした気になる話。薪に付着したセシウムが焚き火、暖炉、竈で濃縮され、木灰の放射性濃度がかかり高くなるので、薪の使用禁止の地区が出始めているらしい。福島は薪の販売禁止。宮城県の県南、県北の薪も使用禁止になるらしい。なんという事だろう。この事態で火が焚けないなんて。プロメテウスの火みたい。プリミティブな火を失ったようなものだ。

私たちは発明を繰り返さねばならない。足りない物は自ら発明し、作り出さねばならないのだ。家族の形や子供との関係をはじめとし、様々な関係性を改めて発明し直す事が必要とされている。出来るかな...?

阪大でのちび火は、私にとっては「出来るかな...?」が「出来るかも...」に変わった企画であった。この企画で出会って発展した様々な関係は確実に私の世界を多様にくれた。火を焚く事のみでもこんなに様々な楽しみがわき起こるのだ。薪の先には日本の山の問題や魅力が、焼き物の先には食にまつわる様々な世界が、対話の先には多様な価値観が出会った人分広がっている。人生の様々な問題には究極の一つの解決策なんてない。戦争にしても AIDS にしても経済にしても放射能にしても、様々な問題に最終的な解決策を望む事は逆に危険だろう。ずーと思考し続けて、少しずつ試しては修正していくしかないのである。そのためには緩やかで持続的な他者との対話が不可欠で、それもきっと会議室などでの対話ではいい方向には向かないのだろうか...。「ちび火」みたいな場と時間の方がいいような直感があるな...。

又、楽しいちび火したいな...。そして、誰かがちび火してたらゆっくりと近づいて火に手をかざしながら混ぜりたい。いつしか、日本中、世界中の様々な場所でちび火的な場が多様に、にぎやかにあふれかえっている情景を夢想している。

最後に、企画の運営に粘り強く携わり、様々な関係構築に尽力いただいた、スタッフの皆様、先生諸氏、大学事務局の方々、警備の方々、薪を提供いただいたの方々、ほんとうにありがとうございました。又、楽しいちび火が展開でき、場を共有出来ますように。

完